

今年9月に落成式典が行われた大熊町立学び舎ゆめの森  
認定こども園、義務教育学校、預かり保育、学童保育を一体にした施設



●レビュー●

## 除去土壌の輸送を振り返って

除染に伴い生じた除去土壌等はフレコンバッグと呼ばれる大きな袋に詰められ、福島県内各地の仮置場等に仮置きされた後、福島県大熊町・双葉町にある中間貯蔵施設まで輸送されています。

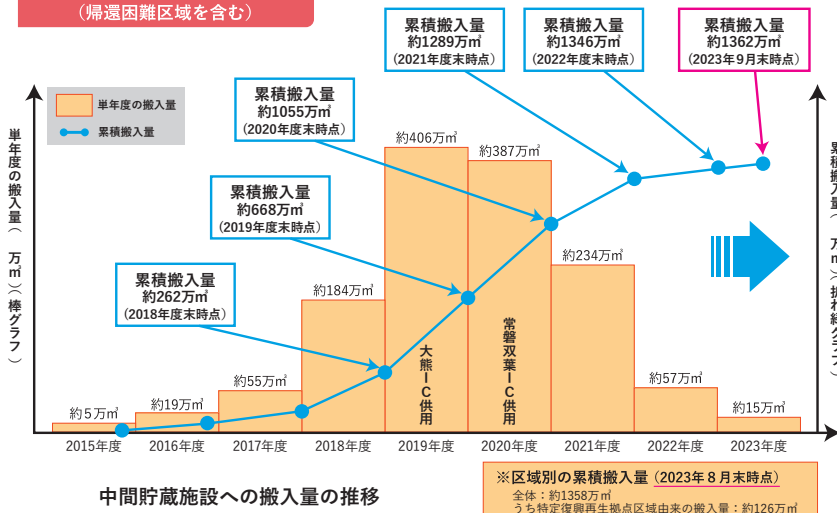
2015（平成27）年3月より開始されて以降、除去土壌等の輸送量は、図に示す通り、累積で1,300万m<sup>3</sup>を超えています。ピーク時には、1日に3,000台を超える10tダンプトラックが輸送のため走行し、1年間にフレコンバッグ400万袋分が運ばれました。2021（令和3）年度末までに、帰還困難区域のものを除いて概ね輸送は完了し、現在では大部分の仮置場等が解消されました。今年の一日のダンプトラックの走行は200台程度になっています。

しかし、それ以降も主に帰還困難区域内の特定復興再生拠点区域での除染に加え、今後は、特定帰還居住区域での除染も開始される見込みであることから、除去土壌等の輸送は引き続き行われます。



輸送の様子

### 中間貯蔵施設への搬入量の推移 (帰還困難区域を含む)



除去土壌等の輸送にあたっては、①安全かつ確実に、②短期間かつ円滑に、③国民及び関係機関の理解と協力の下、実施することを基本原則としています。JESCOでは、この基本原則に則り、いわき市の中間貯蔵管理センターに輸送統括管理センターを設け、フレコンバッグの全数管理とGPSシステム等を活用した全ての輸送車両の運行管理（あらかじめ定められた輸送ルートを走行しているか等のチェック）を行っています。このような徹底した管理により、これまで大きな事故もなく輸送を進めてくることができました。JESCOは今後も安全かつ確実な輸送のためにその役割を果たしてまいります。

## ●ふたばワールド 2023 in おおくま開催！ JESCO も出展しました！

前日の強風で開催が心配された「ふたばワールド 2023 in おおくま」が、10月7日に大熊町大川原の特設会場で開催されました。

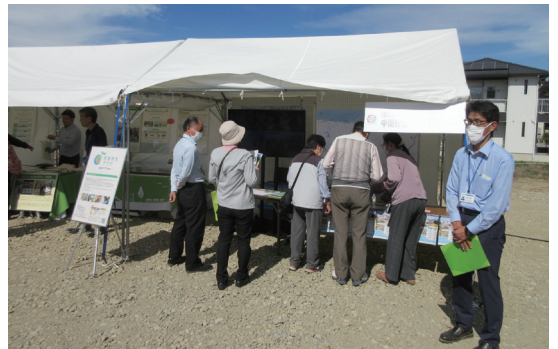
「ふたばワールド」は、震災と原発事故で全国に避難している住民の交流の場にしようと、2013（平成25）年以降、双葉郡の各町村をめぐりながら開催されています。今回の会場は、6月に完成したばかりの大熊町の教育施設「学び舎ゆめの森」周辺。

会場では、この日しか食べられない特製スイーツや、大熊町のイチゴ「おおくまベリー」を使用した特製パンの販売などの双葉郡の特産品の販売、ステージでは地元の郷土芸能やレジェンド声優二人のトークショー、小林幸子さんのスペシャルステージなどが行われました。また、常磐ものの「カナガシラ」を使った大鍋が無料で振舞われ、多くの来場者が舌鼓を打ちました。

JESCO は、復旧・復興に向けた取り組みなどの展示 PR 紹介に、今年もブースを出展。中間貯蔵区域の工事以前の生活の様子をとりまとめた「思い出写真集」の紹介や中間貯蔵区域の見学の案内など、多くの方に中間貯蔵施設での取組や状況の説明を行いました。



ステージの様子



JESCO の出展ブース

## ●多くの高校生・大学生が区域の見学に来ています

11月23日～25日に、今年度4回目の環境省主催の学生向けのワークショップが行われ、全国から32名の大学生が参加し、中間貯蔵施設や、中間貯蔵区域内にある、住民の皆様とのコミュニティにとって重要だった、特別養護老人ホームのサンライトおおくま、正八幡神社を見学しました。



見学会の様子

サンライトおおくまからは、中間貯蔵施設の奥に東京電力福島第一原子力発電所も遠望でき、参加者は事故について学ぶとともに、中間貯蔵施設ができるまでの地元の皆様の大変重いご決断に至った経緯について耳を傾けていました。

今年度、これまで全国の大学生や高校生 1000人近くが、環境省や大学主催のツアー、修学旅行などを通じて中間貯蔵施設の見学に訪れています。今後、更に県外最終処分や再生利用、地域の将来を一緒に考えてもらえるようになるために、より多くの若者に中間貯蔵施設や地域の現状を見ていただけるように努力したいと考えています。

### 情報センターだより

#### ▼見学者アンケート

●科学的根拠を正しく公表していくことに加え、一般人が求めなくても目・耳に入るようにしていくこと。周知が必須だと思う。／福島市 40代

●百聞は一見に如かず、ということわざもある様にまずはお客さんを誘致して見学を通じて理解をしてもらうことで理解が深まると思います。／千葉県 20代

●いくら安全といわれていても、少し不安になってしまう。これは見学前も見学後も変わらなかった。しかし、今回の見学を通して様々な人たちの思いを知り、理解する事ができた。なので、安全と同時に背景を知ってほしいと思う。／長野県 10代

#### ▼情報センター見学のご案内

中間貯蔵工事情報センターは無料で見学できます。  
(中間貯蔵施設の見学は事前の申込みが必要です。)  
詳しくはホームページをご覧ください。



福島県双葉郡大熊町大字小入野字向畑 256

### 編集後記

●今年も多くの学生が中貯区域を訪れました。見学者アンケートを見ると、何はなくてもまずは中貯区域や大熊、双葉を訪れてもらうのが大事だと実感します。(中島)

●解説系 YouTuber・ドントテルミー 荒井氏による福島第一原発 10km 圏内の現状について解説した動画、取り組んでいる課題の大きさをどう伝えたらいいのか、とても参考になりました。(沼田)

●いわきサンシャインマラソンを4時間半くらいで完走する予定でしたが、体重は前走+15キロ。エントリー画面をそっと閉じました。悲惨世界。(小柳)